

**令和7年度千葉県水産振興審議会 栽培漁業・資源管理部会
議事概要**

- 1 日 時 令和8年1月29日(木) 午後2時から午後3時まで
- 2 場 所 千葉県教育会館 304 会議室
- 3 出席委員 委員10名中7名出席
山崎委員、小嶋委員、伊藤委員、滝口委員、廣沢委員、石井委員、
中井委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 題
- (1) 部会長の選出及び部会長代理の指名について
 - (2) 「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和7年度実績について
 - (3) 「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和8年度計画について(協議事項)
 - (4) 本県主要魚種の資源評価・管理について
 - (5) 漁場整備に関する事業実施状況について
 - (6) 藻場の保全・回復対策の実施状況について

6 議事概要

今回は新たな任期となって初めての会議のため、事務局から委員の紹介を行った。次に、出席委員数を確認し、千葉県行政組織条例第32条第2項の規定により本部会は成立していることを報告した。その後、水産局長から挨拶を行った。

会長及び副会長が選出されるまでの間、漁業資源課長が仮議長となり、議事を進行した。

議題(1) 部会長の選出及び部会長代理の指名について

部会長について、委員から小嶋委員が推薦され、異議なく選出された。部会長代理は、部会長から滝口委員が指名された。

議題(2) 「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和7年度実績について

議題(3) 「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和8年度計画について【協議事項】

議題(2)及び(3)について関連事項であることから、一括して資料1、資料1-1、資料1-2、資料2のとおり漁業資源課から説明があり、質疑応答の後に議題(3)について原案通り承認された。

【質疑応答等】

① ひらめ、まこがれい種苗の生産施設について（資料 1-1、1-2）

委員：ひらめとまこがれいの放流は、生産施設である種苗生産研究所富津生産開発室の工事の関係で、休止となっているが、工事の進捗はどうか。

県：現在、新しい飼育棟の建築工事に着手しており、今年 4 月に完成予定である。また、既存施設等の改修工事を今年 3 月から着手し、令和 9 年度中に完成予定である。

委員：今年からひらめの放流は休止しているが、その影響が出るのはこれからだと思う。なるべく早く安定した形での放流の再開をお願いしたい。

② ひらめの混入率について（資料 2 8 ページ）

委員：ひらめの混入率が 1.3%～11.7%となっているが、現場の感覚としてはもっと高いと感じている。

県：ひらめについては黒化率も改善されてきている。今後も健全な種苗を供給していきたい。

③ まこがれいの標識について（資料 2 8 ページ）

委員：まこがれいの放流効果の把握として、尾びれ屈曲を指標としているとのことだが、天然魚と顕著に異なるのか。また、単価への影響はないのか。

県：一般の人は見た目では尾びれ屈曲は区別できない。慣れている水産総合研究センターの職員が見ると分かる程度の標識であり、単価への影響はない。

議題（4）本県主要魚種の資源評価・管理について

参考資料 2-1、2-2 により漁業資源課から説明があった。

【質疑応答等】

① ヒラメの漁獲量について（参考資料 2-2 19 ページ）

委員：ひらめの漁獲量と放流尾数の経年変化のグラフを見ると、近年放流数はそこまで大きく変わっていないが、2023 年の漁獲量が前年に比べて極端に減少している。その理由は。

県：漁獲努力量の減少が大きいと考えられる。

委員：太平洋中部海域の推定資源量も減少しているが、同じ理由か。

県：同じ理由と考えられる。

議題（5）漁場整備に関する事業実施状況について

参考資料 3 により、漁業資源課から説明があった。

議題（6）磯焼け対策に関する取組状況について

参考資料 4 により、漁業資源課から説明があった。